

## 実践記録（小4・図画工作）

### 1 ねらい

自分のイメージを整理し、作品の工夫を伝え合う活動を通して、イメージ通りに作品づくりができるようにする。

### 2 手立て

- ・ 思考ツールを用いることで、児童のイメージを視覚化し、表現したいものを考えられるようにする。想像したことを洗い出したり、それらを整理したりすることができれば、本当に表現したいものを見付け、意欲的に作品づくりに取り組むことが実現できると考えた。
- ・ 学習支援ソフトの付箋機能を用いて意見交流を行う。視点を決めて見付けた工夫を、色分けした付箋で伝え合うようにする。自分の作品を確認し、新しく見付けた工夫をこれからの作品づくりに活用できると考えた。

### 3 実践の様子

児童の頭の中で描きたい作品をイメージさせ、思考ツールを用いてタブレット上でイメージを洗い出させたり、整理させたりしながら「描こうとするもの」を決めた。

導入では、物語文を基に描きたい絵をイメージさせ、思考ツールの「Yチャート」で「場所や物」「登場人物」「あらすじや場面」の3点に注目して書き出させた。何を描くか決まらなかった児童は、「物語の場面ごとのイメージにあるものを書き出してみよう」と言って、「Yチャート」の3点に合わせて並べていた。【資料1】

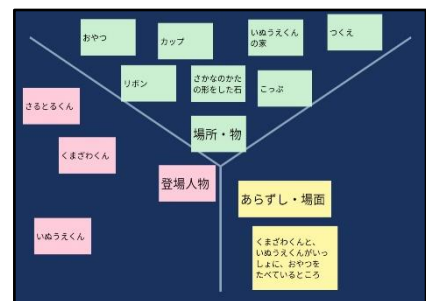
展開では、「Yチャート」で放出させた児童のイメージを「ダイヤモンドランキング」を用いて、描きたい場面に合致している順に並び替えて整理させた。ここでは、「これは、私の描きたい場面にはいらないかな。」と言って、描くべきものを取捨選択する様子が見られた。

最後に、「クラゲチャート」を使って、描きたい場面のあらすじと自分の描こうとしているものが合致しているかを【資料2】視点をもとに色分けした工夫確認させた。「なんか、いつもより描きたいものがはっきりしていて、絵が描けそうな気がする。」という声が聞かれた。作品が完成すると、児童は互いの作品の工夫を、視点をもとに色分けして入力し、それらを送り合いながら意見交流を行った。【資料2】

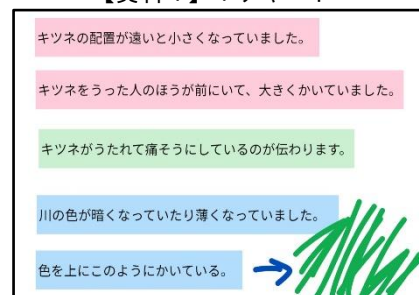
互いの作品を見て、「この絵は、登場人物が大きく描かれていていいね。」という工夫を見付け、褒め合う声が聞かれた。これらの交流を通して、児童は友達に気付いてもらえた工夫をこれからも使い、意欲的に作品づくりを進めようという意識をもつことができた。

### 4 成果と課題

- 思考ツールの活用で、イメージを整理することができ、明確な考えをもって、意欲的に作品づくりに取り組むことができた。
- 付箋機能を活用し意見交流を行ったことで、自分の気付いた工夫を相手に伝えやすくなり、互いの作品の工夫を見つけ合いながら、それらを共有することができた。
- 完成した作品をもとに意見交流を行ったため、新しく得た工夫をすぐに試したり、それを使って作品を修正したりすることができなかった。



【資料1】 Yチャート



【資料2】 視点をもとに色分けした工夫